

津波研究の最前線Ⅱ

—過去の津波の事例研究—

¥7,000+ 税

1. 都司嘉宣

総論：津波研究の最前線・Ⅱ—過去の津波の事例研究—

1章 古文献による歴史津波の研究

2. 渡邊偉夫……………ピスカイノが見た慶長（1611年）三陸津波
3. 都司嘉宣・西畑剛・佐藤貴史・佐藤一敏……………寛保元年（1741）渡島大島噴火津波による北海道沿岸での浸水高さ
4. 都司嘉宣……………古文書文献記録、および伝承に見る島原大変津波（1792）
5. 村上仁士・島田富美男・山本尚明・上月康則・佐藤広章……………四国沿岸域における歴史津波の浸水高評価
6. 羽鳥徳太郎……………関東・伊豆の歴史津波
7. 相田勇……………慶長南海津の鹿児島湾内における挙動

2章 津波と人間

8. 岩崎伸一……………古津波の痕跡高調査に関する「鍬下願い」の活用について—安政南海津波徳島県日和佐町の例—
9. 山下文男……………明治（1896年）三陸津波における死者数と負傷者数の関係、及びその男女比率などが提起している問題
10. 北原系子……………明治三陸津波と村の対応—青森県三沢村の場合—

3章 津波痕跡遺物による物証研究

11. 菅原大助・箕浦幸治・今村文彦……………西暦 869 年貞観津波による堆積物に関する現地調査
12. 加藤祐三・田村一浩……………沖縄県下地島北岸佐和田の津波石
13. 七山太・加賀新・木下博久・横山芳春・佐竹健治・中田高・杉山雄一・佃栄吉……………淡海峽、友ヶ島において発見された南海地震津波の痕跡
14. 西村裕一……………歴史噴火と歴史津波—1994年ラバウルと1640年北海道駒ヶ岳の噴火と津波—
15. 七山太・牧野彰人・古川竜太・重野聖之・佐竹健治・加賀新・小板橋重一・石井正之……………イベント堆積物を用いた津波の遡上規模と再来間隔の評価—千島海溝沿岸域における研究例—

4章 津波発生伝播過程の物理検証

16. 佐竹健治・加藤孝弘……………1741年寛保津波は渡島大島の山体崩壊によって生じた
17. 村上嘉謙・都司嘉宣……………津波記録を考慮した元禄関東地震（1703年12月31日）の地震断層モデル
18. 松山昌史……………1998年パプア・ニューギニア地震津波の速報数値計算結果について—津波数値計算結果を使う上での注意点—
19. 高橋智幸・長谷川史朗・上畑善行……………水理実験による津波堆積物の再現
20. 阿部邦昭……………津波スペクトルにおける卓越周期の出現頻度
21. 韓世燮・都司嘉宣……………Green-Naghdi 方程式を用いた津波の非線型数値計算